

## 史跡探訪感想文

### 市内史跡探訪に参加して

佐藤 文雄

八月二十四日、標記の史跡探訪が行われた。あいにくの小雨交じりの中であったが、約三〇名が参加、わが退職者会別府支会史談会からは矢島、岡田、藤原、田中、佐藤の五名が参加した。概要を報告する。

コースは別府駅から海に向かって左側ほぼ五〇〇m四方を探訪するものである。

まずは別府駅。明治四十四年七月開通、大分駅は同年十一月に開通された。一昨年、大分駅の高架がやっとできたが、別府駅の高架はなんと昭和四十一年九月完成とのことである。

次に駅前の油屋熊八像。別府の観光開発に尽力した実業家である。ガイドの解説者は「熊八像よりも彼が始めた全国初の女性観光バスガイドの像の方がインパクトがあったのかないか」と言っていた。

旧近鉄裏に小さなお堂があり、本尊は延命地藏尊である。慶長二年（一五九六年）の大地震で別府湾沖合にあった瓜生島と久光島が沈んでしまい、千人近くの人が亡くなり、人々の苦悩を癒すために建立された。瓜生島は聞いたことがあったが、久光島は初めて聞く話である。ここでお参りすると、延命（長生き）できると言われている。

次は浄土真宗本願寺派本願寺別府別院・大谷記念館。別府別院は昭和六年頃説教所として設立、その後昭和十八年に別府教堂となり、別府別院と改称されたのは昭和二十四年五月のことである。これは、鉄輪で病氣療養していた大谷探検隊でも知られる第二二代門主大谷光瑞（鏡如）上人が昭和二十三年一〇月に亡くなり、現本堂において仮葬儀が行われたことが由縁となっている。併設の大谷記念館には、鏡如上人の骨骨が安置されており、遺品、遺墨等が二階に陳列されている。

別府タワー前の山手の道を上ると木造二階建てのレトロな建物が眼につく。旅館山田別荘を見学する。格式のある玄関構え、玄関横の洋間等、旅館らしからぬ建築物である。昭和五年、ラクテンチと関わりある広島素封家山田英三が別荘として建てたもので、戦後旅館に衣更えした。

次が海門寺公園、海門寺温泉に隣接する海門禪寺。この寺は、別府湾久光島にあったが、先に延命地藏尊のところへ述べた慶長の大地震で陥没し、この地に開創されたという。境内には市指定の天然記念物の立派なクロマツがある。松の脇には、松尾芭蕉の句碑「作り木の庭をいさめる 志ぐれ可那」が建てられていた。

その外、高浜虚子にゆかりのある秋吉邸や昭和園別荘、かおり荘、財間酒舗、中井質店などの古風な建物があった。この地域内の古くからの温泉である立花温泉、老松温泉、弓松温泉、春日温泉なども見て回った。狭い地域に由緒ある史跡が多く残されていることに驚かされたところである。

## 杵築・国東紀行

斎藤 哲

平成二十六年十一月十六日午前八時三十分、別府史談会の杵築・国東探訪のバスツアーは、絶好の行楽日和の下、満席

の三十数名の参加者を乗せて別府駅前を出発した。

まず、武家屋敷街の雰囲気の中に佇む「きつき城下町資料館」を訪れた。この施設は平成元年に杵築の文化財施設のセクターとして建設され、歴史公園や一松邸も併設されている。そこで、現在行われている杵築城藩主御殿発掘調査の概要説明を受けた。

杵築城は、当初は現在天守閣が再建されている丘陵部に有ったが、慶長から正保にかけて北方平地に移され、十七世紀末までに移転を完了し城山城郭は廃止されていた。元禄七年貝原益軒が「豊後紀行」に記しているように「木付に城なし、町あり」であった。

最近、御殿跡地に建つ杵築中学校の移転に伴い発掘調査を開始した結果、御殿南長屋、御殿西長屋、玄関門、櫻馬場等の御殿中心の杵築城の遺構が明らかになって来ている。

現在の杵築城は、昭和四四年杵築市長の八坂善一郎氏が「杵築城の復元委員会」を作り、募金を開始し、昭和四五年十月に落成したものである。

杵築で昼食をすませ、黒田官兵衛ゆかりの安岐城跡や富来城跡をバスの中から確かめながら、国見の有永邸に到着した。